

しんごんしゅう ちさんは
真言宗 智山派

すみださん きっしょういん
隅田山 吉祥院

たもんじ
多聞寺

東京都墨田区墨田5-31-13
☎03-3616-6002

すみだがわしちふく
*隅田川七福めぐり 元旦〜七草

ひがんくよう こうぼうだいし み え く
*春彼岸供養・弘法大師正御影供

春分の日

*花まつり人形劇 4月

せがきえ
*大施餓鬼会 5月1日

ぼんくよう
*お盆供養 7月・8月

ひがんくよう
*秋彼岸供養 秋分の日

じょうどうえ こうぎょうだいしほうおんこう
*成道会・興教大師報恩講

いのちと平和コンサート 11月

びしゃもんてん
本尊・毘沙門天像

多聞寺の本尊の毘沙門天像は、弘法大師作と伝えられますが、鎌倉時代の特徴を示す総高約50cmの本立像です。/ 多聞天とも呼ばれ、ヒンドゥー教の財宝神クベーラの別名でもあり、持国天・増長天・広目天とともに四天王の一体に数えられます。/ 四天王は、古代インドの護世神でしたが、仏教に取り入れられ、仏法と仏法に帰依をする人々を守護する護法神です。仏教の世界観の中心須弥山の中腹の四方に配されます。ことに北方を守護する毘沙門天は独尊で信仰されます。/ 福德の名声が遠く聞こえ、善行の者には財宝を授ける善神として七福神の内に数えられます。/ 武装忿怒の形は、中国で一般化され、多聞寺の本尊も右手に仏の智慧を象徴する宝棒、左手に仏の教えを現す宝塔を捧げ、邪鬼を踏み、鎧を身に付けています。頭部の兜が特徴的です。/ この勇ましい姿は、

ほんとうのことを見抜く ちえ 智 慧 と
ほんとうのことをまもる 勇 氣
を現しています。

「すべての者は暴力におびえる。すべての（生きもの）にとっていのちは愛しい。

己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」Dhammapada 130

というお釈迦様の教えの証として、殺し殺される苦悩＝戦争のない世界を具現させましょう。

山 門(さんもん)

山門中央(ちゅうおう)の「隅田山(すみださん)」と記(き)された山号額(さんごうがく)の裏(うら)に「明和(めいわ)九(く)年(ねん)」(1772年)と彫(ほ)られており、現存(げんぞん)する墨田区内(すみだく) (すみだくない) 最古(さいこ)の建造物(けんぞうぶつ)として区登録有形文化財(くとうろくゆうけいぶんかざい)とされています。/ 屋根(やね)を支(ささ)える本柱(ほんばしら)の前後(ぜんご)に二本ずつの控柱(ひかえばしら)をもつところから四足門(しそくもん)または四脚門(しきゃくもん)と呼(よ)ばれる形式(けいしき)の門です。一部(いちぶ)には朱(しゅ)と思(おも)われる痕跡(こんせき)があり、建立(こんりゅう)当初(とうしょ)は朱塗(しゅぬり)瓦葺(かわらぶき)であった可能性(かのうせい)が察(さつ)せられます。その後(のち)、享和(きょうわ)三年(1803年)の火災(かさい)、安政(あんせい)二年(1855年)の大地震(おおじしん)などの被害(ひがい)を受(う)け、後(のち)に茅葺(かやぶき)にされたものと思(おも)われます。その後もこの門は、排仏(はいぶつ)毀釈(きしゃく)、関東大震災(かんとうだいしんさい)、十五年戦争(じゅうごねんせんそう)などの天災(てんさい)と人災(じんさい)の歴史(れきし)をくぐり抜(ぬ)け、娑婆(しゃば) [人間(にんげん)自身(じしん)が作(つく)り出(だ)した苦(くる)しみの世界(せかい)] の人々(ひとびと)の営(いとな)みを見据(みす)えてきました。/ これからも、安楽(あんらく)を願(ねが)う人々(ひとびと)を見守(みまも)ってくれるでしょう。

狸塚のいわれ

むかし、江戸幕府が開かれる前の頃、今の多聞寺のあたりは、隅田川の河原の中で、草木が生い茂るとても寂しいところでした。

そこには、大きな池があり、ひとたび見るだけで気
を失い、何か月も寝込んでしまうという毒蛇がひそん
でいました。また、牛松^{うしまつ}と呼ばれる、おとなが五人で
かかえるほどの松の大木がありました。この松の根元
には大きな穴があり、妖怪狸がすみつき人々をたぶら
かしていたのです。/そこで、鑢^{ばんかい}海和尚^{いしやう}と村人たちは、
人も寄りつくこともできないような、恐ろしいこの場
所に、お堂を建てて妖怪たちを追い払うことにしまし
た。/まず、大きな松を切り倒し、穴をふさぎ、それ
から、池を埋めてしまいました。

するとどうでしょう、大地がとどろき、空から土が降ってきたり、いたずらはひどくなるばかりです。／ある晩のことでした、和尚さんの夢の中に、天までとどくような大入道おおにゅうどうがあらわれて、／「おい、ここはわしのものじゃ。さっさと 出て行け！ さもないと、村人たちを食ってしまうぞ。 」 と、おどかすのでした。

和尚さんはびっくりして、一心にご本尊さまを拝み
ました。/やがて、ご本尊毘沙門天のお使いが現れて、
妖怪狸に話しました。

「おまえの悪さは、いつかおまえをほろぼすことになるぞ。」 / 次の朝、二匹の狸がお堂の前で死んでいました。 / これを見つけた和尚さんと村人たちは、狸がかわいそうになりました。

そして、切り倒してしまった松の木や、埋めてしまっ

た池への供養のためにもと、塚を築いたのでした。

阿彌陀如来像(石像)
あみだによらい

お釈迦さまが^{しゃか}覺^{さと}られた内容を法^{ほう}といいます。それは
姿形のあるものとしては説かれませんでした。やがて、
お釈迦さまが入滅されたあと、如来というお姿で現さ
れるようになりました。ですから真言宗のご本尊を
^{ほっしんだいにちにょらい}
法身大日如来とお呼びします。/ 阿弥陀はインドの呼
び名で、「アミターユス（アミターバ）」の音訳です。

中国では無量寿（無量光）如来と訳され、時間的・空間的な無限の済いをあらわしています。/ 大日如来のもとでは、妙みょう観かん察ざつち智ちえという智慧を現わし、生きとし生けるものの迷いを断って、願いを成就する如来さまとして拝まれます。/ 日本では、戦乱と天変地異が続いた中世のころから、阿弥陀さまの念ねん仏ぶつ往おう生じょうの誓願せいがんにたのむ「南無阿弥陀仏」という民衆の念仏行が広がりました。/ 多聞寺山門左手には、江戸の念仏信仰の広がりを証する「南無阿弥陀仏」の石碑が享保十一（1726）年に建てられています。また、参道入り口に安置される、阿弥陀如来の石像は、1664（寛文四）年に造立されました。（墨田区指定文化財）

ろくじぞう
六地蔵

大地が、堅固で豊かな恵みの源であるように、衆生^{しゅじょう}の苦悩を受け止めても崩れない強く豊かな覚りへの心を現わしている、身近な菩薩さまです。/ お釈迦さまが^{にゅうめつ}入滅して、弥勒菩薩^{みろく}が成仏するまでの期間、六道^{ろくどう}（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天という人間の迷い）に苦しむ衆生^{しゅじょう}を済^{すく}う菩薩として、末法思想^{まっぽう}と結び付いて、平安時代末期から信仰が盛んになりました。

閻魔さまは、お地蔵さまが地獄におりて、人間に身体と言葉と心の行いの重さを自覚させ、覚りへ導いてくださろうとしているお姿です。

境内には、18世紀前半に造立された六地藏が安置されていますが、座像は都内でも四例にすぎない貴重なお姿です。また、参道入り口の阿弥陀如来象と並んでいらっしゃるのは子安^{こやす}地藏です。

平^{へい}和^わ觀^{くわ}音^{おん}像^{のん} (石像)

本堂に向かって左手前の庭にお立ちになる観音さまは、1984年に、真言宗の開祖弘法大師のご入定にゆうじょう千百五十年のご遠忌おんきを記念して、檀信徒の報恩謝徳ほうおんしやくとくの証しとして建立されました。

「観自在菩薩の 手に蓮華を執って 一切衆生の身
心の中に 本来清浄の理あるを表す」という弘法大師
の教えを受け、仏教の第一の戒め「殺してはならない。
殺させてはならない。殺すことを許してはならない。」
(不殺生)を誓うものです。

人間が人間を殺すために作り出した武器・軍備を、人間であるわたしたちが廃絶し、戦争の無い世界を実現するための証しのお姿です。

たもんじ交流農園

老若男女様々な人々が集い、人間と人間、自然と人間
の関係をたがやす（＝農）場として、地元の N P O の
人々によって始められました。50種類に及ぶ江戸野
菜の復活を目指し、世代と地域を超えて、学びと交流
を深めています。農地の無い墨田区で初めて「市民緑
地」に認定されました